

令和5年度 第2回 播磨町上下水道運営委員会 議事概要

日 時	令和6年2月15日(木) 14時～15時25分
場 所	播磨町役場 第一庁舎3階 302会議室
出席者	<p>【播磨町上下水道運営委員】</p> <p>竹川 宏子(学識経験者・兵庫大学現代ビジネス学部教授)(会長)</p> <p>西口 泰平(使用者の代表・播磨町商工会(株)西口商店)</p> <p>中村 まさみ(使用者の代表・播磨町連合婦人会会長)</p> <p>宮尾 尚子(使用者の代表・播磨町消費者協会副会長)</p> <p>吉川 俊行(使用者の代表・播磨町民生委員児童委員協議会会長)</p> <p>藤田 一幸(使用者の代表・播磨町自治会連合会自治会長OB)</p> <p>【事務局】</p> <p>藤原 崇雄(上下水道部長)</p> <p>小林 勉(上下水道課長)</p> <p>石見 竜哉(上下水道課経営担当課長)</p> <p>草部 良倫(上下水道課下水道係長)</p> <p>丸山 徹也(上下水道課経営係長)</p>
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 議事(1) 播磨町下水道事業経営戦略(案)について</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉会</p>

1 開会

2 議事

(会長)

第2回ということで今回経営戦略について説明を聞くことになるかと思いますが、今年に入りまして、皆様よくご存知のように元旦に地震が起こりました。連日のいろんな報道等あるかと思いますが、やっぱり何が一番必要かといったときに、水だと思います。それは水道のことを言っているとは思いますが、下水施設、これがおそらくとても大切なことで、やっぱりセットで使われるものだと思います。能登半島は過疎化も進んでいて、耐震化があまり進んでないということもあって水道設備などの破損も多かったということです。播磨町につきましては、耐震化の準備を進めているということが水道の委員会で話がありました。

今回大切な生活のインフラである下水ですね、これについて現状と、それから将来的にどうやってそれを修繕維持管理していくのかということをお話し合うということで、委員の皆様方におかれましては、説明を聞いていただいて、周りの人にまた話をしていただいて、理解を深めていくというそういった大きな役割があるかと思いますが、いろいろと細かい難しい話もあったりするそうですけれども、ご質問などいただきながらやっていきたいと思えます。

では早速ですが、議事に入らせていただきます。

次第に沿って進めていきます。本日の議事、播磨町下水道事業戦略案について事務局の方から説明をよろしくお願いたします。

(事務局)

今回お示ししている経営戦略の改定案は、令和3年度に策定した播磨町下水道ストックマネジメント計画の内容を反映させたものとなっています。改定案は、ストックマネジメント計画の策定を行った株式会社NJSに作成を委託しており、総務省のひな形様式を用いた必要最低限の内容だった改定前の経営戦略に比べ、図やグラフを多用し視覚的にも見やすい内容となっています。本経営戦略の構成を大まかに説明しますと、前半部分で播磨町の下水道事業の現状や課題がどのようなになっているのかを説明し、このまま対策をとらなければ今後どうなるのかシミュレーションしています。後半部分では、課題を解決するための具体的な取り組みや目標を記載し、2024年度からの10年間の財政収支計画をまとめています。

それでは、事前に資料をお送りした際に、特にご確認いただきたい事項としてお伝えしていた箇所を中心に、事務局より説明を行います。まず、第1章として、1ページから2ページにかけて策定の背景と目的を記載しています。次に、3ページから11ページにかけて、播磨町の概要として、これまでの下水道事業の沿革や現況を記載しています。

12 ページをご覧ください。

このページでは、下水道事業の現状をお示ししています。一番上のグラフは、過去 10 年間の有収水量と水洗化人口の推移になります。水洗化人口が 10 年で 2.5% 増えているのに合わせて、有収水量も 10 年で 3.1% 上昇しています。

真ん中のグラフは、水洗化人口一人当たりの年間有収水量の推移になります。年によってバラツキはありますが、この 10 年で見るとおおむね一定の水準にあると言えます。一番下のグラフは、使用料単価と年間使用料収入の推移になります。使用料単価はおおむね一定の水準で推移している一方、年間使用料収入はこの 10 年で 3.7% 上昇しています。

次に、16 ページをご覧ください。

このページでは、管渠の過去の布設状況をお示ししています。

上のグラフが汚水管渠の布設状況です。昭和 63 年度から布設が始まり、平成 16 年度ごろまでに大半の管渠の布設が終わっています。管渠の標準耐用年数は 50 年とされており、今後すぐに更新投資が必要になることは想定されていません。

下のグラフは、雨水管渠の布設状況です。昭和 53、54 年度に大半の管渠が整備されています。雨水管渠についての更新も気になるころではありますが、耐用年数の経過とともにすぐに更新しなければならないものとは今のところ考えておりません。

17 ページをご覧ください。

上のグラフは、雨水ポンプ場における過去の投資額を示しています。平成 4～6 年度に本荘雨水ポンプ場の建設を行っており、平成 30 年度以降は本荘雨水ポンプ場の更新投資と、令和 7 年度に完成予定の浜田雨水ポンプ場の詳細・実施設計にかかる投資となっています。

下のグラフは、兵庫県内の一般家庭用の 1 カ月当たりの下水道使用料を示しています。播磨町は、1 カ月あたり 2,030 円となっており、県内平均の 2,779 円と比べても安い水準にあります。

18 ページは、これまでの主な経営健全化の取組について記載し、19 ページから 21 ページにかけては経営比較分析表による現状分析を行っています。

資料 3 の、兵庫県内の下水道使用料という資料をご覧ください。

前回の上下水道運営委員会で、近隣市町との下水道使用料の比較についてご指摘いただきましたので、資料としてまとめました。グラフとしては経営戦略改定案の 17 ページと同じものではありません。赤色で着色しているのが播磨町で、黄色で着色しているところが近隣市町の加古川市、高砂市、稲美町になります。播磨町は、稲美町よりわずかに高いものの、ほぼ同じ水準であり、加古川市、高砂市より安いことがわかります。

以上が、播磨町の下水道事業の現状となります。

【会長】

ありがとうございます。

ここでは下水道の現状ということで、前回の宿題からの質問に対する回答もご説明いた

きました。ここで質疑に入らせていただきたいと思います、皆様ご質問等ございませんでしょうか。

【委員】

18 ページの使用料徴収方法の多様化というところですけども、使ったものはいただくという建前上、こういう方策で、いわゆる収納率はアップしたのかどうか。監査委員さんが言われていたのは、10 円をいただくのに 30 円の経費がかかってもいただくものはいただきなさいという指導があったので、播磨町の考え方であるとか収納率アップの方法であるとか、その状況を教えていただけたらありがたいです。

【事務局】

使用料収納方法の多様化というところで、金融機関が増えたりとかあとコンビニで払えるようになったりとか、直近でしたらスマホ決済導入しておりますけれども、マイナスの要因ではないですが、むしろこちらよりは徴収の強化というところで徴収率がアップしております。現状では頭打ちになってきていまして、これ以上伸ばすのもなかなか難しい水準にあります。

【委員】

もう一点、いわゆる徴収に対するマンパワーといいますかね、物量的なものでいいと思いますが、そういう配置は足りていますか。

【事務局】

停水のとくに、2 班体制で徴収に回ることに対応ができているところです。

【会長】

停水は効果ありますか。

【事務局】

そうですね。効果あります。

【会長】

それが一番いいですね。それが一番わかりやすいし、それが一番厳しいかもしれない。

【事務局】

水を止めるっていうのは結構厳しい措置になるのですが、元々は金融機関からの口座引き落としと、窓口で払う方法しかありませんでした。コンビニ収納を入れて、24 時間

どこでも払えるようになって、今回スマホの決済もできるようになって、支払う手段はあるけども、支払ってない方に対して厳しい措置を取るというような形で、セットで考えていこうということです。銀行でしたら 3 時までしか支払えないということで、土日しか休みがなく支払う手段がないという話も過去に結構ありまして、夜 8 時ぐらいに集金に行かないといけないともありました。徴収に余分なコストをかけないと徴収もできないし水もなかなか止められないというところがありましたので、こういう対策をしています。今は効率的に回れるように、担当だけが徴収をやるのではなくて、課内全体で人が足りなければ技術職員も応援しています。

【委員】

下水道使用料を平均 21.2%、2010 年に引き上げとありますが、このときに資本費算入割合は 40%を目標ということで値上げさせてもらって、最終的には 50%まで引き上げたいという意向でしたが、今のところはどれぐらいの割合ですか。

【事務局】

経理のやり方が当時とちょっと変わってしまっていて、単純比較はできないのですが、大体 7 割ぐらいを使用料収入で回収しているような感じですね。

【委員】

以前に比べるとものすごく会計的には強くなって、一般会計からの繰入が少なくなっていると聞いています。

【事務局】

下水道事業は、短い期間で一気に下水道を整備していて、ほとんど補助金と借入金で賄っているのですが、その借入金の利息がものすごく高い状況でした。今ちょうど償還が終わってきており、少しずつ一般会計からの繰入金も減ってきているような状況で、今後 10 年で大幅に減少する見込みです。今、4 億数千万あるのですが、10 年後には 2 億円ちょっとにまで減る見込みです。やっぱり一気に整備したっていうのが、なかなか財政的にも厳しい要因の一つだというのは間違いないと考えています。

【会長】

他にご質問いかがでしょうか。特になければ、この先のところを説明いただきたいなと思います。次のところはですね、将来の対策をとらない場合、どうなっていくのかというようなシミュレーションの話がメインになってくるかと思しますので、引き続き事務局からご説明をお願いします。

【事務局】

22 ページをご覧ください。

上のグラフでは、今後 50 年間の水洗化人口の予測を行っています。国立社会保障人口問題研究所で示された予測値を採用し、2050 年度以降は人口減少率を一定の値として予測人口を算出しています。その結果、50 年後の 2073 年度には、2024 年度と比べ水洗化人口は 32 パーセント減って 21,058 人程度となる予測となっています。

下のグラフは、有収水量の予測となっています。使用料収入に直結する有収水量も、水洗化人口の減少と同じく減少が見込まれ、今後 50 年間で 32%減少する見込みとなっています。

23 ページをご覧ください。

こちらは、使用料収入の見通しをお示したグラフになりますが、こちらも同様に今後 50 年間で 32%減少する見込みとなっています。現状であっても、汚水処理にかかる費用を賄うことはできていないため、今後さらに使用料収入が減少することを考えると、その対策をとらなければ今後も下水道事業を継続して運営していくことは難しいと言えます。

25 ページをご覧ください。

ここからは、成り行きシミュレーションとあって、今ある下水道施設を標準耐用年数で更新していった場合に、どういった結果となるかをお示したものになります。このページでは、そのシミュレーションを行うにあたっての前提条件を記載しています。

26 ページをご覧ください。

上の表は、収益的収支の長期見通しとなります。支出の部、利息の欄をご覧ください。2045 年度以降に污水管渠の更新ピークを迎えることにより、損益が悪化し企業債利息の支払いが一気に増える計算となっています。損益の欄をご覧ください。2054 年度以降に収支均衡してはいますが、これは一般会計からの繰入金によるもので、一般会計に大きな負担をかけていることがわかります。一番下のグラフは、使用料収入と污水に係る経費、そして経費回収率の推移を表したグラフになります。経費回収率は、2038 年にかけて上昇していますが、使用料収入が減っていく一方で維持管理にかかる費用が増大するため、長期的にみると悪化する結果となっています。

27 ページをご覧ください。

こちらは、資本的収支のシミュレーション結果です。2045 年度以降に改築事業の集中投資が行われるため、ピーク時の 2049～2053 年度には年間 18 億円程度の更新事業を行う必要が生じます。企業債残高・資金残高総括表をご覧ください。更新事業に伴い、2053 年頃にかけて企業債残高は急激に増加し、120 億円程度に達する見込みです。標準耐用年数の経過とともに更新事業を行っていくとこういった結果となりますが、これは資金面でも人的資源の面でも非常に困難な状況です。

28 ページをご覧ください。

成り行きシミュレーションによって、播磨町の下水道事業が抱える様々な課題が明らか

となりましたが、このページではその課題をヒト・モノ・カネ視点でまとめています。まずヒト視点ですが、職員の確保と育成が課題であります。庁内においては、下水道の実務経験を有する職員が少なくなってきました。老朽施設の更新事業を控えているため、その時に技術職員不足とならないようにする必要があります。

次にモノ視点ですが、施設・設備の強靱化や事業費総額の削減が課題となります。29 ページをご覧ください。1月に起きた能登半島地震が記憶に新しいところではありますが、本地域においても施設の耐震化を推進し、将来起こりうる災害への備えは計画的に進める必要があります。また、施設を適性に管理しながら長期間使用することで、経営の安定化と将来世代への負担軽減を図る必要があります、更新投資が集中しないよう事業の平準化を行うことが重要となります。

次にカネ視点ですが、独立採算制である下水道事業は、自立した経営が求められています。一般会計からの繰入金徐徐に削減し、公営企業として自立した安定経営を行う必要があります。以上が、播磨町の下水道事業の今後の課題となります。

【会長】

説明ありがとうございました。それでは、ここまでの内容でご質問ございましたらお願いします。

【委員】

26 ページの表なのですが、一般会計繰入金が 2049 年から一気に上がっているんですね。これはどういうわけかということと、減価償却費がほとんど変わっていないのかな。これもどういうことか説明をお願いします。

【事務局】

まず一般会計の繰入金が上昇している理由ですけれども、こちらにつきましては、24 ページに工種別更新費用集計表というのがあるのですが、対応年数が来ることで汚水の管路を更新していくのにこういった投資が必要になってくるというのをまとめたものです。2044 年以降に、汚水管の更新が 50 年経過してきますので、一斉に投資が必要になってきます。それに伴って出ていく資金が多くなりますので、支払い利息などが増え一般会計からの繰入金が増えるというのが、繰入金の増加の理由となっております。あと減価償却費ですけれども、こちらにつきましては、最初の分が終わると同時に次の減価償却が始まりますので、そのあたりでなかなか減らないというようになっていて、シミュレーション上ではこういった数字になっているということです。

【会長】

これは 50 年で更新したというようなパターンだと、こういう変動がありますよっていう

ことですね。結局この 26 ページの収益的収支総括表の下のところだと経費回収率が最初は 79%とか 86%となっているけど、だんだん半分も賄えなくなってきてしまうっていう、要は、経営だったらもう破綻しているような状態が続くというか。そんな赤字が続くような状態に今なってしまうと、お金をどこから持ってくるのって話になって、基本的には全部下水の中で完結していくものが、不足がずっと生じ続けるよっていうそういった形になる。まとめて更新するとなると変動が大きくて、そういう中で人口が少しずつ減っていくという不安定な状況というのが成り行きシミュレーションだと見えてくるのかなと。27 ページの企業債残高も、2024 年は 40 億円だったところが 2053 年で 120 億円に跳ね上がる。だからといってすごく危険という話ではないかと思いますが、変動がすごく大きいと、そういうことが経営課題として見えるということですね。

【委員】

要するに、このままいくと大変ですよというのを数字で見せていただいたと理解したらいいですね。

【会長】

そうですね。28 ページの 1 の (3) では、人に関しては上水道下水道で両方柔軟に使う形でやっていけば、ノウハウを共有されるし次の世代への継承というのもできるということになるかと思しますので、こういった組織の工夫というのも記載されているということになりますね。他にご質問いかがでしょうか。よろしければ、先ほどの続きのところを説明していただきたいと思います。32 ページの辺りから、これからこれをどうやっていけば安定的にできるのかということで、対策ですよ。町の方で考えていきたい対策、これを紹介いただくことと、それからそれを実際にやった場合どんな感じになっていくのか。対策の内容とその結果ということが想定されるのかということについて説明をいただくということになります。よろしいでしょうか。それでは、お願いします。

【事務局】

32 ページをご覧ください。ここからは、経営戦略で定める今後の目標とその実現に向けた取り組みを記載しています。まず一つ目が、「老朽管の更新と管路の耐震化を計画的に行う」ということで、今後増加が想定される老朽管の更新を、令和 3 年度に策定したストックマネジメント計画に基づいて計画的に行うことを記載しています。二つ目が、「管路の耐震化」についてです。播磨町に埋設されている管渠延長は約 146 キロメートルあるため、それらすべてを耐震化するのは多くの時間と莫大な費用が必要になります。そのため、管路の重要度を考慮して、計画的に耐震化を進めることとしています。

33 ページをご覧ください。二つ目の目標は、「計画的な施設整備と事業の平準化」としてあります。耐用年数を経過した管路をまとめて更新していくのではなく、更新時期の前倒しや、

ストックマネジメント計画に基づいて更新投資時期の平準化を行うこととしています。

3 つ目の目標は、「長期にわたり健全で安定的な経営に努める」としており、そのために「職員の確保と育成」が必要となります。具体的な取り組みとしては、職員不足に対応するために民間委託の活用や職員のスキルアップとしての研修の充実をあげています。

34 ページをご覧ください。「財源確保のための起債と使用料改定の必要性の検討」としてあります。長期にわたって健全で安定的な経営を行うためには、自立した経営が求められます。一般会計からの繰入金に頼ることなく、繰入金を削減することを目標としています。現時点ではすぐに更新投資を行う必要はありませんが、将来の更新投資時期に資金が確保できるよう、使用料改定の必要性について検討を行う旨を記載しています。

一定期間ごとに改定が必要かどうか継続的に検討を行いますが、当分の間企業債の償還額が減少していき、財務状況が改善していくことが見込まれますので、令和 16 年頃に使用料の改定の検討を行うこととしております。

4 つ目の目標は、「下水道への理解を高める」としています。下水道の役割や必要性を、様々な機会を通して情報発信するような内容としています。

35 ページをご覧ください。5 つ目の目標は、「下水道による治水対策を進める」としてあります。現在建設を行っている浜田雨水ポンプ場の設置や、内水ハザードマップの作成を行い、災害に備える予定としています。

38、39 ページをご覧ください。ここでは、計画期間における具体的な目標を設定しています。今後、目標に対し成果が表れているか、継続的に検証していくこととしています。

43～45 ページは、経営改善のための施策を反映させた 10 年間の投資財政収支計画となります。43 ページの前提条件は、成り行きシミュレーションの前提に加えて、ストックマネジメント計画を反映させたものとしています。その結果、44 ページの収益的収支の投資財政収支計画では、計画期間の 10 年間で黒字を確保します。45 ページは、資本的収支の投資財政収支計画になります。計画期間の 10 年では、企業債残高が減少していきます。更新時期が到来する 2045 年度以降においても、建設改良費を平準化することで企業債残高は同程度の金額となる見込みです。以上で、経営戦略改定案の説明を終わります。

【会長】

事務局からの経営戦略改定案の説明が終わりました。質疑応答ということでご意見いただきたいのですが、ここでちょっと私の方からお願いがあります。ストックマネジメント計画、何度もキーワードとして出てきて、50 ページにも説明があるのですが、具体的にどうやっていくのかっていうことを少しご説明いただければありがたいなと思います。ストックというのは「今あるもの」で、それを「マネジメント」するということですね。それを維持管理するというのがイメージだと思うのですが、具体的にどんな活動をしているのか。

【事務局】

令和4年2月に、播磨町では下水道ストックマネジメント計画というものを策定しております。

こちらに関しましては、下水道施設の污水管と汚水のマンホール及びマンホール蓋を対象として、どのようなリスクが今後発生する可能性があるのか、といった施設管理の目標設定を策定しております。それに基づいて長期的な改修事業がいずれ出てくるということで、そのシミュレーションを行った上で、予算の平準化等を検討しております。今のところ、その施設の点検と調査を毎年継続的に積み重ねて行き、計画的に点検調査をしていこうというところまでを、今現在、ストックマネジメント計画で策定しています。

今後ですが、現在、浜田雨水ポンプ場というのを建築しており、それが完成するのが令和7年度の予定となっています。現行のストックマネジメント計画には污水管渠しか反映していませんが、浜田雨水ポンプ場が完成した後は、雨水管渠と、ポンプ場を含めた形で新たにストックマネジメント計画の見直しを行う予定です。そうなりますと下水道施設全体のストックマネジメント計画が確立しますので、より一層計画がわかりやすくなる予定です。

今は比較的管路が古くないので健全なのですが、今後はこの点検調査計画を進めていくにつれて、だんだん古い施設のここが壊れているなど、詰まる恐れがあるなどというトラブルの情報が蓄積されていくと思いますので、そういう時期が来ましたら、ストックマネジメント計画の次の段階、修繕計画というものを作成します。

次は、それに基づいてどのように更新していく必要があるのかという計画を、そのとき将来的にわたって段階的にレベルアップしていく予定にはしております。

【会長】

ありがとうございます。イメージからすると、人で言えば健康なうちに人間ドックみたい体に体を調べて、ここが怪しいですよ、数値が良くないですよとなれば、経過観察や治療に移行して、再び健康になれば、またいつものように正常に動ける形になるということでしょうか。人と物は違いますけれども、基本的には実際にマンホールの中に入ってカメラを入れて、確認を行っていくということですね。

ストックマネジメント計画では、良い状態の段階で心配そうなところの確認点検をやっていくということで、寿命を伸ばすことにつながると。新しくポンプ場が完成した際には、污水だけではなく雨水やポンプ場を含めて、計画を立てていくということですね。

先ほどの説明の中でありました43ページの収益的支出の支出で、「ストックマネジメント計画策定費」とか「ストックマネジメント計画の点検調査費」といった文言があるなど、または資本的収支の支出、建設改良費でも「污水管渠ストックマネジメント計画の長期的な改築事業予測結果」といった文言が入っております。

25ページの成り行きシミュレーション、つまり現状のまま何もしなければどうなるかという前提条件に、ストックマネジメント計画の考え方、内容を追加することで、少しでも費

用が安く、そして良い状態で使っていこうという将来へ向けた計画であり、今回事務局が提案している経営戦略の策定という話につながっていて、それが反映されたものが44ページから45ページあたりに入ってくるのだという説明になるかと思います。こういったことも踏まえて、質問やご意見があれば発言していただきたいのですが、いかがでしょうか。

【委員】

このストックマネジメント計画によって、どうなるかっていうことがグラフで可視化されているので、わかりやすく、安心できる内容の資料ではあります。

先日の能登半島地震でもありましたが、播磨町も海に近いですから地震により液状化にならないかとか、そういう危機管理やリスクマネジメントというのは、この経営戦略の中に入っているのでしょうか。例えば、管渠の更新をするとき、耐震化といっても災害に強いちょっとワンランク上のものにするとか、そういうことの検討も必要であると思うのですが、そういう長期的な災害に関連した考え方が含まれた計画になっているのかどうか、お聞きします。

【事務局】

経営戦略の中ではちょっと抽象的に記載されているところではありますが、播磨町下水道計画というものがあって、重要な汚水幹線や、避難輸送路の道路の下、鉄道の下に埋設されている污水管などを耐震化していきましょうという内容の計画があります。

この計画の中で、来年度から下水道総合地震対策計画という下水道に特化した計画を作る予定をしており、その中で先ほど委員がおっしゃられた液状化の検討だとか、その重要管路をさらに見直して、例えば避難所から下流側をどのように耐震化していくかですとか、避難所ごとにマンホールトイレを整備して、その下流側の管路を使用可能な状態に保つための計画も総合地震対策計画の中に盛り込んで事業を推進していく予定です。

今後計画立てていく予定ですので、ある程度お示しできるようになればまたお話ししたいなと思います。

【委員】

なるほど。下水道を利用したトイレの設置をしても、下水道が壊れていたら、それをどこに流すのかという話ですね。

【事務局】

マンホールトイレだけを作るということは比較的やりやすいかもしれませんが、その下水道の下流が使えないとマンホールトイレは機能しませんので、その辺もきちんと考慮した上で、計画を立てることが重要だと考えています。

【委員】

被災地では、下水道が使えないことによってトイレ事情がすごく不便だというニュースも見聞きします。マンホールトイレというものはもう何年も前から議会なんかでもすごく話題に上がっている案件の一つですから、きちんと計画の中に入れていただいていると聞き安心しました。

【事務局】

液状化に関しては、土質や地下水位というのが非常に大きく影響しますので、町内全体どこが液状化しやすいのか、マンホールの隆起が生じる恐れがあるのかなど、ここが危険というのがわかればそこを集中的に対策するといったように、計画を立てていきたいと考えています。

【委員】

土山駅前には住宅とかお店とかなんかが入り組んでいて、下水の整備が行き渡っていないように聞いていますが。

【事務局】

他の課の事業にはなりますが、駅前の再開発ですとか、他の事業の計画があるところについては、どうしても二重投資になってしまう可能性がありますので、下水道がまだ入っていないところは確かにあります。

【委員】

私たちは普段何気なく下水道を使っていますけど、どうやったら下水道をいい状態で保てるのかっていうのがちょっと素人にはよくわからない。そんな方がたくさんいらっしゃると思う。下水道に関する啓蒙活動がいきわたっていないのではと感じている。

【会長】

34 ページに記載されていますが、目標4の「下水道への理解を高める」という点ですね。

【委員】

恥ずかしながら私もこの場でいろいろと勉強させてもらって、そうなのかって感じることはいっぱいあります。料理で使った油の処理についても、下水道管が詰まる原因になってしまうなど、視覚的に見せていただくと意識もしていけると思うし、いくら下水道管が立派なものであっても、使う方にも問題があってはいけないと思います。

播磨町の町民全体で維持管理をしていかないといけないと思う。だから上下水道課の方だけが頑張っていただいても、使う側がきちんと理解していなくては問題が出て来てしま

うのではと思います。

【会長】

他にご意見はありませんか。

【委員】

ストックマネジメント計画の内容を追加することによって、これだけ分析結果に違いが出てくるということに驚きました。

【事務局】

そうですね。普段は地下にありますし、普通に流れていれば意識することはありませんが、いざ何か起きたら大変な事態が起きるとというのが下水道でして、それを未然に防ぐために、1個1個詳細に点検していくと、費用と時間がかかってしまいます。町内140キロ以上ある下水道管をいかに効率的に点検していくか、そのやり方として播磨町で採用しているのが、スクリーニング調査という、簡易的にトラブルが起きてないかどうかを確認する点検を行っています。

スクリーニング調査で、少しでも異常が発見された箇所を改めて詳細的に調査することで効率化を図っています。以前はテレビカメラで管の継ぎ目ごとに1個ずつ漏水がないかとかいうふうに点検していましたが、今、町が採用しているのは、連続撮影できるカメラに管渠内を走行させ、ビデオで早送りしながら見ていくというような方法で、今までの費用と比較すると断然安価な手法となっています。健康診断で例えますと、簡易的な検査を実施して何か異常があればそれを精密検査すると同じようなことです。

【委員】

上下水道事業というのは、市町村の事業の中でも一番大事なことだと思います。

【委員】

ストックマネジメント計画を遂行するにあたっては、PDCAサイクルの検証がすごく必要だと思います。検証結果をちゃんと住民周知して理解してもらう必要があると思います。

【会長】

ただこのPDCAの場合は、計画をある程度実行して高い水準になった後はそれをいかに維持していくか、95点が続けばいいが80、70点と下がらないことが大切です。100点を目指すことも重要ですが、その95点から100点にするには異常なコストがかかってします。

ある程度高い水準になったのであれば、これはもう他の改善すべき課題を別に見つけて、そちらに注力したほうが良いのかなというふうに思います。

【事務局】

今回 38、39 ページの辺りで、指標となるようなものをピックアップして載せさせていただいておりますが、計画を作るだけでは駄目ですから、どのようにチェックして今後に繋げるかということをご現在考えているところです。

今、現状がどうなって、事業がどのように進んでいるのかということを知っていただくためにも、まず上下水道運営委員会などを毎年開催させていただいて、事業の進捗状況の報告などをさせてもらおうかなと思っています。

その資料をホームページにも公開していきますし、今回冊子を作って住民の皆さんにお配りしましたが、水道事業がどのように進んでいるか、下水道事業はどんな感じなのかということについて、わかりやすい事業だけになるかとは思いますが、そういうのを住民の皆さんに知っていただくような形で、この計画が計画倒れとならないようにしていきたいと考えています。

【委員】

広報と一緒に配布された水道の冊子は、色見もすごく目立ってよくわかる内容でよかったです。ああいうことで住民の目に触れる形で周知徹底するってすごくいい手法だなと思いました。これからもよろしくお願いします。

【委員】

やっぱり言葉で話していただくのも良いが、目で見えることでさらにわかりやすくなります。LINEでいろいろな情報が播磨町から来ますが、まず見ようと思わない。なぜかというと、今後詳しいことはここをクリックしてくださいよとなっている。広報だったら目に見えてわかりやすく書いてあるから、あれは記事を切り取って貼っておくこともできる。

【会長】

これは世代によって違いがあります。若い人は逆にクリックしてくださいと書いている方が見ることが多いです。そういう意味では、紙もデータも両方やっぱり必要だと思います。私も仕事で学生を相手にしていますが、同じ中身のものですが紙とデータの両方の形で提供して、好きな方法で見てもらおうようにしています。

他にご意見はありませんか。

【委員】

26 ページ、収益的収支の長期前受金戻入について、詳しく教えてもらえますか。

【事務局】

償却資産の中には、様々な財源があります。例えば国庫補助金であるとか、民間から譲り

受けた受贈資産であるとか、要するに下水道事業会計として自己資金を出さずに、他からの出資提供というか、そういったもので取得した資産というのは、長期前受金戻入として減価償却の償却期間に合わせて収益化していくことになります。

【委員】

それがすごい額になっているように思います。

【事務局】

それだけ先ほど例示した収益化する金額が大きいからなのですが、具体的には先ほどの国庫補助金、受贈資産、他会計繰入金、受益者負担金と、基準内で繰り入れている一般会計からの繰入金、そのあたりが全て長期前受金となりますので、このような金額になっています。

【委員】

資料3について兵庫県下の下水道使用料の金額を比較した内容ですが、せっかく作られています、水道料金を加えたらどうなるのですかね。ちょっとその資料もできたら作成をお願いしたいと思います。

【会長】

他にも次回の上下水道運営委員会で用意してほしい資料があれば、今ご依頼いただくと、用意していただけるとは思います、いかがでしょうか。全体を見ると、播磨町の場合、長期的に下水は安心ですよ、破綻するということにはなっていませんよと言うことで、30年40年見たときにも安心ですよ。ただそうは言っても永遠ということはないわけだし、また環境が変わったりする可能性もあるので、そうなってくるとやはり5年10年で定期的な見直しをやる必要がありますよねと。

市町の中には、人口が激減して、もう本当に立ち行かない超高齢化とかですね、あるいは人がいないということで大変なところがいっぱいある中で、播磨町さんはコンパクトにすごく効率的に住まわれています。高低差もないというところもあるから、確かに液状化は心配かもしれないけど、高低差がないから上に上げて下ろすとかそういうことをしなくていい部分は、とても恵まれたところになっているのかなと思いますね。

日本全体を見たときに、山奥の一軒家とかになると、同じ町が負担しなきゃいけないなんてことが起こったりするものを、ここは本当にいい感じですよ。ここは、地域コミュニティもしっかりされているし、これからの住み方のお手本になるような感じで住まわれていると思います。

私も下水道はありがたいと思いますけど、意識することは少ないんですが、以前に強く意識することがありました。何かというと、県の水道担当の方にうちの学校に来て、授業のと

きにお話していただいたんです。そしたら、もちろん公衆衛生の話とかもするのですが、水道の話もしていただいて、学生に数十年前の下水が整備されてなかった頃の古い映像を編集されたものを見せたんですよね。私も初めて見るもので、もうゴミは捨てる、垂れ流してというそのすごい不衛生な状況。もちろん水道もそうですけれども、菌がいっぱいあってもそれをそのまま使ってますよってということで、下水もそうですけどセットで見て、もう今の子たちは衛生環境が良い中で暮らしてきているから、トラウマじゃないけれども、結構びっくりしていました。そんなことで、ありがたいっていうのをみんな実感できたから、下水道がなかったときにどうなんだろうとか、ない時代はどうだったんだろうかっていうのを具体的に見たり聞いたりするとより一層重要性がわかって、それでこの費用だったら仕方ないよねって、皆さん納得がいくのかなということだと思います。ありがたく使わせていただいている時代だと何か本当に当たり前だと思うけど、ないときのことってやっぱり想像しても、今回不幸にも、能登半島の地震があったからそういったない状況っていうのを見ることになって。ただ報道されませんからね。具体的に下水道がなくて壊れて、こういう状況で、悪臭がすごいですとか、そんな話は表にあまり出されることはないかと思うんですけど、実際行った方は相当すごいものを見てくるんじゃないかと。だからそこら辺の想像力を膨らませて行って、その費用負担っていうのを、公正な状態でこういう議論をもとにできれば一番いいのかなと思います。綺麗にしましょうだけだとあまりピンと来ない人は、なかったらどうだと思ふうにちょっと言ってもらったら、想像がたくさんできるのかなと思いました。

最後ですがご質問等いかがでしょうか。特に質問がないようでしたら、予定の時間もきておりますので、本日の議事を終えたいと思います。

それでは司会を事務局の方に戻します。

【事務局】

竹川会長、円滑な議事進行をありがとうございました。また、委員の皆様には、熱心なご審議を賜りありがとうございました。

続いて、次第の「3 その他」で今後のスケジュールについて説明させていただきます。

本日ご審議いただきました下水道事業経営戦略(案)ですが、このあと町ホームページにおいて2月中にパブリックコメントを実施し、一般の方からの意見を募る予定としています。3月中旬頃まで意見を募りますが、軽微な修正のみであれば、本日委員の皆さまよりいただいたご意見を反映させたもので経営戦略を策定します。もし、大きく修正が必要な意見が出てきた場合、再度上下水道運営委員会を開催することも検討いたしますので、その際にご協力をお願いしたいと思います。

パブリックコメントで大きな修正が必要なものがなければ、令和5年度の上下水道運営委員会はこれで終了となりますが、上下水道運営委員会の委員の任期は令和7年3月末ま

でなっていますので、令和6年度には1回、秋頃に開催したいと考えています。内容は、水道事業の進捗状況をご報告することなどを考えています。

委員の皆様におかれましては、今後ともご指導とご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

また、本日の会議の議事録につきましては、委員の皆様にご確認いただいたのち、個人名等は伏せたうえで後日、町のホームページで公開させていただきます。

それでは以上をもちまして、令和5年度第2回播磨町上下水道運営委員会を閉会いたします。

皆様、長時間ありがとうございました。